

第3章 研究評価委員会の講評と土木研究所の対応

1、土木研究所 研究評価委員会の講評

第2章に示した土木研究所研究評価分科会での評価結果とこれに対する土木研究所の対応を踏まえ、平成16年6月16日に土木研究所研究評価委員会を開催し、重点プロジェクト研究について最終評価を行った。審議の詳細については本書の巻末参考資料に議事録として示すとおりであるが、研究評価委員会における講評は次のとおりである。

講評

委員のみによる審議を行った後、土木研究所が実施する重点プロジェクト研究について、玉井委員長より以下のとおり講評がなされた。

1：研究評価委員会は、先に開催された研究評価分科会の結果については、これを了承する。その上で以下の4点をコメントする。

：重点プロジェクト研究の表題と個別課題の研究内容がうまくリンクするように進められたい

：研究の成果は、それらが事業化され活用される中で世の中のさまざまな面に間接的影響も及ぼすことがある。その意味で研究の段階からLCA（life cycle assessment）の考え方で、製造物責任や事業の計画・施工・管理・運営など全体として終結するまでを視野に入れるべきである。

：研究成果の社会への貢献については、さらに認識を深めその使命が果たせるように務められたい

：3年間の努力した成果は充分まとめられ、良い結果が出ている。

2：次期重点プロジェクト研究を検討するうえで次の点を考慮されたい。

：土木研究所の理念、つまりどのような研究所になるのか、土木研究所らしさをどのように発揮するかを検討されたい。

：分科会をまたがる課題が想定されることから、委員会によるアドバイスの機会は重要である。

2、 土木研究所の対応

土木研究所研究評価分科会での評価結果は、土木研究所研究評価委員会において了承されたので、今後提案した実施計画に従って鋭意研究を進め、実施計画書に掲げた達成目標の実現を目指していきたい。

上記の講評に対する土木研究所の考え方は次の通りである。

【指摘】

：重点プロジェクト研究の表題と個別課題の研究内容がうまくリンクするように進められたい。

【対応】

研究の表題と内容については、それらが適切にリンクするように努め、表題にあった有意義な成果が出るように努めて参りたい。

【指摘】

：研究の成果は、それらが事業化され活用される中で世の中のさまざまな面に間接的影響も及ぼすことがある。その意味で研究の段階から L C A (life cycle assessment) の考え方で、製造物責任や事業の計画・施工・管理・運営など全体として終結するまでを視野に入れるべきである。

【対応】

土木研究所の使命は、土木技術に関する研究並びにその成果の普及などを行うことにより良質な社会資本の効率的な整備の推進に資することにある。ご指摘の様に研究成果は事業化の中で様々な影響が考えられる。計画・設計だけでなく施工・管理を含めトータルな視点で考えて参りたい。

【指摘】

：研究成果の社会への貢献については、さらに認識を深めその使命が果たせるように務められたい。

【対応】

ご指摘の通り、さらにその使命が果たせるように努めて参りたい。

また、次期重点プロジェクト研究の策定にあたっては、ご指摘の点を踏まえ土木研究所の存在意義を明確にしていくことがますます重要と認識している。策定にあたってはさらに御指導・御鞭撻を頂きたい。